

平成30年度 事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和49年2月8日

協会は、昭和49年2月8日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会として設立。平成15年7月1日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会を存続法人として、(社)青森県畜産会及び青森県肉用牛協会が再編統合し名称を「(社)青森県畜産協会」に変更した。

平成20年6月1日に青森県草地畜産協会と統合。更に平成22年4月1日に(社)青森県畜産物価格安定基金協会と合併した。

平成25年4月1日に青森県知事から移行認可を得て「一般社団法人青森県畜産協会」に移行した。

2. 定款に定める目的

協会は、畜産経営の安定向上及び安全で良質な畜産物の生産と流通に関する事業を行い、畜産の振興に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 畜産に係る生産の振興及び経営技術の指導に関する事業
- (2) 畜産に係る調査・研究及び情報の収集・提供並びに畜産指導員の教育及び養成に関する事業
- (3) 畜産農家等が組織する団体の運営の指導に関する事業
- (4) 草地基盤や自給飼料に係る調査・指導及び放牧促進に関する事業
- (5) 畜産物に係る普及啓発及び流通・消費拡大に関する事業
- (6) 経営安定のための肥育牛及び肥育豚に係る生産者積立金及び補填金の交付等に関する事業
- (7) 肉用子牛生産安定等特別措置法に基づく肉用子牛生産者補給金の交付等に関する事業
- (8) 家畜の健康保持等に係る技術指導及び予防接種並びに家畜伝染病の発生時における損失補填金の交付等に関する事業
- (9) 農場の生産衛生の指導及び検査並びに畜産物の安全性確保に関する事業
- (10) その他協会の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項 青森県 農林水産部 畜産課

5. 会員の状況

区 分	年度当初 会 員 数	30年度		年度末 会 員 数	備 考
		増	減		
正 会 員	85	0	1	84	ゆうき青森農協と斗南丘酪農農協合併のため
賛助会員	4	0	0	4	
計	89	0	1	88	

6. 主たる事務所 青森市中央二丁目1番15号（畜連ビル2F）

7. 役員に関する事項

(1) 役員の変動

区 分	氏 名	所 属 団 体	年 月 日
辞任・理事	丸 井 幸 悦	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会 専務理事	H30.6.5
就任・理事 (副会長)	佐々木 福 栄	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員（八戸農協長）	H30.10.31

8. 職員に関する事項

前期末 職員数	増	減	本年度末 職員数	備 考
9	6	1	14	
	原子 亜理沙 田邊 孝明 成田 由姫 坂本 美保子 鳴海 由美子 横山 恭子	葛西 裕子		(正職員 5名、嘱託 6名、臨時 3名、非常勤を除く。)

9. 総会及び理事会の開催に関する事項

(1) 第1回理事会

期日場所：平成30年5月23日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

第1号議案 平成29年度事業報告及び計算書類の承認について

第2号議案 平成30年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について

第3号議案 平成30年度借入金限度額及び取引金融機関の承認について

第4号議案 平成30年度役員報酬額について

第5号議案 平成30年度事業計画及び収支予算の決定について

第6号議案 業務方法書等の一部変更について（家畜防疫互助事業、獣医師養成確保修学資金貸与事業）

第7号議案 第15回定時総会の開催期日及び提出議案について

〔報告事項〕

(1) 業務の執行状況について

(2) 公益目的支出計画実施報告書について

(2) 第15回定時総会

期日場所：平成30年6月25日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

第1号議案 平成29年度事業報告及び計算書類の承認について

第2号議案 平成30年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について

第3号議案 平成30年度事業計画書及び収支予算書の報告について

(3) 第2回理事会（書面議決）

期日場所：平成30年10月31日

〔議決事項〕

第1号議案 佐々木福栄理事を副会長としての承認について

第2号議案 肉用牛肥育経営安定特別対策事業の法制化に伴う積立金管理者指定申請の承認について

(4) 第3回理事会

期日場所：平成31年2月26日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

第1号議案 平成30年度事業計画書及び収支予算書の変更（補正）について

第2号議案 平成31年度事業計画書及び収支予算書について（暫定）

第3号議案 諸規程の一部変更について

第4号議案 肉用牛肥育経営安定制度業務方法書の制定及び事業推進について

①業務方法書、②事務委託団体、③手数料、④地域算定・積立金管理者

第5号議案 平成31年度各種事業手数料について

第6号議案 任期満了に伴う役員候補者の推薦団体について

〔報告事項〕 (1) 業務の執行状況について

(2) 平成30年度青森県公社等経営評価委員会評価結果について

(3) 公社等に係る中期経営計画書（2019年度～2023年度）について

(4) 預り運営基金について

10. 監査会等の実施状況

(1) 監事会

期日場所：平成30年5月18日、青森県畜産協会 会議室

監査事項：平成29年度会計事務及び業務に関する監査について

(2) 三上公認会計士事務所による会計事務等の調査・指導

① 平成30年5月17日、平成29年度決算に係る財務調査・指導について

② 平成30年11月26日、平成30年度中間財務調査・指導（前期）について

③ 平成31年3月5日、平成30年度中間財務調査・指導（後期）について

④ 平成31年3月29日、予防事業ワクチン在庫の現地確認調査（十和田市、八戸市）

11. 基金に関する事項

(1) 預り運営基金（正会員等 63 団体）

(単位：円)

区 分	価格安定			家畜衛生	合計
	肉用子牛	肉 豚	(計)		
期首残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000
増 減	0	0	0	0	0
期末残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000

注：肉用子牛に全国肉用牛振興基金協会からの 5,000,000 円を含む

(2) 寄 託 金

(単位：円)

団 体 名	区 分	家畜衛生	備 考
地区家畜衛生推進協議会 (5 地区)	期首残	30,618,000	
	増	0	
	取 崩	△ 4,374,000	
	期末残	26,244,000	

12. 会員名簿

(1) 正会員

H31.3.31 現在

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青 森 県	43	(公社)青森県獣医師会
2	青 森 市	44	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会
3	弘 前 市	45	(一社)青森県養豚協会
4	八 戸 市	46	青森県養鶏協会
5	黒 石 市	47	青森農業協同組合
6	五所川原市	48	つがるにしきた農業協同組合
7	十和田市	49	ごしょつがる農業協同組合
8	三 沢 市	50	つがる弘前農業協同組合
9	む つ 市	51	津軽みらい農業協同組合
10	つ が る 市	52	十和田おいらせ農業協同組合
11	平 川 市	53	ゆうき青森農業協同組合
12	平 内 町	54	おいらせ農業協同組合
13	今 別 町	55	八戸農業協同組合
14	外ヶ浜町	56	東青畜産農業協同組合
15	蓬 田 村	57	三戸畜産農業協同組合
16	鯡ヶ沢町	58	五戸畜産農業協同組合
17	深 浦 町	59	三本木畜産農業協同組合
18	藤 崎 町	60	青森県七戸畜産農業協同組合
19	鶴 田 町	61	田名部畜産農業協同組合
20	中 泊 町	62	大間町畜産農業協同組合

21	野 辺 地 町	63	深浦畜産農業協同組合
22	七 戸 町	64	袖平牧野畜産農業協同組合
23	六 戸 町	65	田代牧野畜産農業協同組合
24	横 浜 町	66	深持牧野畜産農業協同組合
25	東 北 町	67	奥瀬牧野畜産農業協同組合
26	お い ら せ 町	68	法量牧野畜産農業協同組合
27	六 ヶ 所 村	69	東青地区家畜衛生推進協議会
28	大 間 町	70	三八畜産衛生協議会
29	東 通 村	71	上十三地区家畜衛生推進協議会
30	佐 井 村	72	むつ地区家畜衛生推進協議会
31	三 戸 町	73	津軽地区家畜衛生推進協議会
32	五 戸 町	74	(公社)あおもり農林業支援センター
33	田 子 町	75	中部上北広域事業組合
34	南 部 町	76	つがる市屏風山畜産組合
35	階 上 町	77	(農) 和平高原開発農場
36	新 郷 村	78	(農) 北栄トラクター利用組合
37	青森県農業協同組合中央会	79	(農) 吹越台地飼料生産利用組合
38	全国農業協同組合連合会青森県本部	80	青森シャモロック生産者協会
39	全国共済農業協同組合連合会青森県本部	81	青森県養蜂協会
40	青森県農業共済組合連合会	82	雪印種苗(株)十和田営業所
41	青森県畜産農業協同組合連合会	83	ヤンマーアグリジャパン(株)東日本カンパニー北東北営業部青森事務所
42	青森県軽種馬生産農業協同組合	84	みらいのアグリ(株) (北原電牧)

(2) 賛助会員

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青森県農業信用基金協会	3	津軽地域馬肉振興協議会
2	青森県動物薬品器材協会	4	サージミヤワキ(株)札幌営業所

13. 役員名簿

H31.3.31 現在

役 職	氏 名	区分	所 属 団 体
会 長	小山田 久	非常勤	十 和 田 市 市 長
副 会 長	山 崎 憲 久	非常勤	上十三地区家畜衛生推進協議会 会長
副 会 長	佐々木 福 栄	非常勤	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員
専務理事	菅 慶一郎	常 勤	学 識 経 験 者
理 事	小 又 勉	非常勤	七 戸 町 町 長
理 事	戸 田 衛	非常勤	六ヶ所村 村 長
理 事	三 浦 正 名	非常勤	三八畜産衛生協議会 副会長（五戸町長）
理 事	福 島 弘 芳	非常勤	津軽地区家畜衛生推進協議会 会長（つがる市長）
理 事	小山田 富 弥	非常勤	(公社)青森県獣医師会 会長理事
理 事	山 内 正 孝	非常勤	青森県畜産農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	布 施 久	非常勤	(一社)青森県養豚協会 会長理事
理 事	酒 井 一 由	非常勤	ゆうき青森農業協同組合 代表理事組合長
理 事	田 嶋 政 榮	非常勤	青森県農業共済組合連合会 理事
代表監事	白 戸 勝 一	非常勤	学識経験者（ごしょつがる農協 組合長）
監 事	澤 田 恵	非常勤	三戸畜産農業協同組合 代表理事組合長

II 事業別実績概要

一般会計

1 経営支援対策 (継続1)

1. 補助事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 (機構補助・事業費 7,830,990円+919,430円)

肉用牛肥育経営の収益性が悪化した場合に、生産者の拠出と国の助成により造成した基金から、粗収益と生産費との差額の9割を補填することにより、肉用牛肥育経営の安定を図る制度で、肉用牛生産基盤の拡大に寄与するものである。

今年度は、肉専用種、交雑種及び乳用種について、粗収益が生産費を下回ったため、平成30年2月期 (平成30年4月交付) から平成31年1月期 (平成31年3月交付) において補填金の交付を行い経営の安定に資した。

① 対象家畜：

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
積立金取扱頭数	4,887 頭	6,219 頭	15,621 頭	26,727 頭

② 交付条件：1頭当たりの生産費と粗収益との差額分の9割

③ 補填金の交付及び基金管理に要する事務

④ 事業推進委託等 (事務委託先：13団体)

⑤ 補填金の交付状況 (単位：円)

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
平成30年2～3月期	571,900	81,655,200	81,398,800	163,625,900
平成30年4～12月期	40,926,000	199,843,900	375,186,700	615,956,600
平成31年1月分	0	0	59,107,559	59,107,559
計	41,497,900	281,499,100	515,693,059	838,690,059

⑥ 平成30年度 生産者積立金単価

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	備 考
1頭当たり積立金	5,000円	13,000円	11,000円	4月～12月分
	8,000円	17,000円	19,000円	1月～3月分

(2) 地域畜産支援指導等体制強化事業 (地全協補助・事業費 8,530,000円)

畜産農家の安定的経営を目的に基幹職員を配置し、国及び県等の各種事業の推進による畜産指導を効果的に行う体制を整備強化した。

ア 畜産経営の支援体制強化 (内数で事業費 3,206,597円)

イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供

ウ 馬事普及啓発の推進体制の強化

- (3) 堆肥利用ネットワーク推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 480,512円）
耕畜連携のもと、堆きゅう肥の利用促進を図るため普及啓発活動を実施した。
ア 相談窓口の設置 3件、畜産堆肥展示会 4回
イ 堆肥サンプルの更新 15件
ウ 堆肥分析 5件
- (4) 若手及び女性農業者支援体制強化事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 1,478,957円）
畜産をめぐる厳しい情勢に対応するため、女性や若手の経営意識を高め、地域一丸となって生産技術の向上に努める必要があることから、畜産に携わる女性や若手経営者を中心とした研修会等を開催し、生産技術の向上を図った。
ア 第16回モーモー母ちゃんの集い（H30.12.4 野辺地町）38名
イ 若手育成養豚経営勉強会（三沢市(2回)、八戸市(1回)）24名
ウ 畜産に携わる女性の活躍を支援する地域のリーダー候補者の育成のため勉強会(2回、15名)の開催や県内や県外での交流会(4回、9名)へ参加して情報交流を図った。
- (5) 県産食肉普及拡大推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 691,588円）
県産食肉等（牛、鶏、ハチミツ）について、消費拡大及び普及啓蒙を図るため消費者等に向けたセールスプロモーション等を開催した。（7回）
ア 短角牛のPR活動：4回（十和田市）
イ 青森シャモロックのPR活動：1回（六戸町）
ウ 県産はちみつのPR活動：2回（青森市、八戸市）
- (6) 食育等の推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 811,372円）
消費者等を対象に県産畜産物を使った加工研修会及び食育教室を開催した。また、牛にふれあう酪農体験を実施した。
① 牛乳の試飲・酪農体験、1回、弘前市「弥生いこいの広場」来場者1,500名
② 手作りソーセージ教室（県産豚肉）、1回、青森市、参加者23名
③ チーズ作り教室（県産牛乳）、1回、東北町、参加者12名
- (7) 地域畜産振興事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 857,709円）
① 地域の畜産振興を図るため各地域の畜産共進会等に支援を行った。
- (8) 馬事活性化推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 1,003,265円）
地方競馬の活性化、畜産の普及啓発と県内畜産物の消費拡大を図るため、八戸サラブレッド市場、盛岡競馬及び水沢競馬場の開催に合わせ畜産フェアを開催し、県産畜産物を配布。
八戸市（7月5日）100個、盛岡市（10月7日）200個、水沢市（9月2日）200個
- (9) 畜産特別資金等推進指導事業（中央畜産会補助・事業費 4,737,132円）
畜産特別資金が必要であると思慮される経営体の早期把握に努め、事業の適正かつ円滑な実施を図るため、融資機関及び借入者に対する必要な指導その他必要な支援を行った。

① 計画作成指導 [貸付予定者 1戸 (R1.5月)]

② 改善計画見直指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導
畜産経営維持緊急支援資金	4戸	4戸	4戸

③ 改善計画達成指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導	濃密指導
大家畜経営改善支援資金	0戸	0戸	0戸	0戸
大家畜経営活性化資金	1	0	1	0
畜産経営維持緊急支援資金	11	0	11	11
計	12	0	12	11

(10) 畜産女性経営者の地域育成支援事業 (中央畜産会補助・事業費 1,400,722円)

畜産を核とした地域活性化のためには、畜産に携わる女性経営者の育成が求められており、経営の中核的な役割や経営の企画立案に関与できるような女性経営者を目指しており、研修会や畜産女性同士の連携強化を図った。

視察・研修会 1回、経営分析勉強会 1回、地域間連携 3回

2. 受託事業

(1) 畜産経営支援体制確立事業 (県委託・事業費 3,331,000円)

高度な技術を基盤とした生産性の高い畜産経営体を広範かつ急速に育成するため、畜産経営体の経営・生産技術の高度化に対する支援・指導を行い畜産の振興を図った。

- ① 畜産経営体支援研究会 1回
- ② 地域指導相談窓口の配置 4か所 (青森市2か所、六ヶ所村、十和田市)
相談件数 79件
- ③ 畜産経営技術の総合支援個別支援 98件、セミナー等の開催4回
- ④ ホームページによる情報提供 12回更新 (家畜市場成績、県内畜産イベント情報等)
- ⑤ 経営情報のデータベース蓄積と経営支援
(繁殖カルテ作成配布 585戸、肉用繁殖雌 7,148頭)

(2) 畜産現場における障がい者雇用促進支援事業 (中央畜産会委託・事業費 1,094,415円)

障がい者の畜産現場への雇用を促進するため、畜産関係者と福祉関係者のマッチングを行った。また、企画・実行委員会1回、畜産現場の見学会2回、畜産現場の作業体験6回、行った結果、新たに障がい者を雇用する2畜産経営体と就職者2名を確保した。

(3) 畜産クラスター全国実態調査事業 (中央畜産会委託・事業費 240,489円)

畜産クラスターの取組推進に係る経営体の指標作成のための調査を行った。(3戸)

(4) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業 (畜産クラスター事業・機械導入事業)

(中央畜産会委託・事業費 4,720,353円)

畜産クラスター計画に位置づけられている地域の中心的な経営体に対し、収益力強化等に

必要な機械装置の導入支援を行う。

区 分	補助金配分件数	うち参加申請件数	うち承認件数	備 考
平成 30 年 第 1 回目	229 件	82 件	11 件	
平成 30 年 第 2 回目	3 件	3 件	0 件	
計	232 件	85 件	11 件	

平成 30 年度の補助金配分額	462,469,550 円
(28 年度・29 年度・30 年度合計の配分額)	1,473,895,183 円)
上記の事業を実施した県内の畜産クラスター協議会数	5 協議会

- (5) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）（中央畜産会委託・事業費 531,571 円）
酪農を営む者における労働力軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入支援を行う。

区 分	総事業費	国庫補助金	その他	備 考
機械装置導入事業	11,463,120	5,307,000	6,156,120	

- (6) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備推進事業（楽酪GO事業）
(中央畜産会委託・事業費 235,629 円)
酪農家による省力化機械装置の導入と一体的な施設の整備や、複数の酪農家がまとまって搾乳等の作業を集中管理するモデル的な集合搾乳施設の設置に係る普及業務を行った。

- (7) 貸付事業指導等事業（畜産近代化リース協会委託・事業費 435,167円）
畜産経営の近代化と体質強化を図るため、畜産関係機械施設のリース事業により整備したトラクター等飼料生産利用設備及び生乳生産合理化施設の利用状況調査・指導並びに新規開拓に係る調査を行った。

- ① 利用状況調査・指導：9戸、基数：17基
- ② 新規開拓調査：3団体

- (8) 草地難防除雑草駆除対策事業（日本草地畜産種子協会委託・事業費 469,289 円+15,607 円）
草地の生産性向上を図る上で課題となっている難防除雑草の駆除対策として農業者団体が難防除雑草の繁茂した生産性の低い草地から高位生産草地への転換を図るための支援を行った。
(調査分析：1/2 以内、草地転換：上限 17 千円/10a)、
草地転換面積 24.9ha、事業参加戸数 10 戸

- (9) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務（機構委託・事業費 1,289,154円）
平成 30 年 12 月 29 日の TPP 発効により、肉用牛肥育経営安定特別対策事業（通称：牛マルキ

ン)は、補助事業から法制度に移行し、協会は積立金管理者として、機構からの業務委託により引き続き当該業務を実施し、肉用牛肥育経営の安定に寄与した。

(10) 肉用牛肥育経営安定交付金制度準備業務 (機構委託・事業費 922,098円)

肉用牛肥育経営安定特別対策事業は、TPP発効により補助業務から法制度に移行するため、生産者への周知や申込等の準備業務を実施し新制度への円滑な推進を行った。

3. 協会単独事業 (自主事業)

(1) 肉用牛肥育経営安定対策推進事業 (事業費 5,332,200円)

肉用牛肥育経営安定対策事業の円滑な推進を図るために事務委託先 13団体に対し、委託事務に要する経費等を助成した。

(2) 畜産振興対策事業 (事業費 450,737円)

① 広報事業

生産技術の普及向上のため、各地域の畜産共進会に副賞を授与した。また、「畜産協会だより」を3回 (900部) 発行し配布した。

② その他畜産振興に対する支援を行った。

4. 馬事畜産振興対策事業

青森県馬事畜産振興協議会を通じて盛岡競馬場の観戦ツアーを開催した。

盛岡競馬場観戦ツアー (H30.10.14 岩手県盛岡市) 72名

5. 養蜂対策事業

青森県養蜂協会の事務局として「はちみつ品評会」を開催し、はちみつの品質向上を図った。

はちみつ品評会 (H30.10.19 青森市) 出品数 54点

6. 平成30年度エコフィールドを活用した畜産物の優良事例表彰

大量の飼料用米と食品残渣を配合した液状飼料を利用することで飼料費を大幅に低減し、甘みのある豚肉として消費者に評価されるなど肉質の良い豚肉を生産している、つがる市の「株式会社木村牧場」は、中央畜産会が主催する優良事例表彰において、最優秀賞 (農林水産省生産局長賞、中央畜産会長賞) を受賞した。

特別会計

1. 肉用牛肥育経営安定特別対策特別会計 (事業費 794,359,397円)

肉用牛肥育経営安定特別対策事業の生産者積立金の徴収及び基金管理の適正な運営を図った。

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策 (マルキン) における平成30年度(4~12月)基金管理状況

(第3業対)

平成31年3月31日現在

(単位:円)

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
前期繰越金(A)		305,723,000	782,508,176	2,096,280,963	3,184,512,139
収 入	生産者積立金	23,694,000	84,731,000	190,399,000	298,824,000
	機構補助金	71,082,000	254,193,000	571,197,000	896,472,000
	受取利息	2,801	6,707	19,483	28,991
	計(B)	94,778,801	338,930,707	761,615,483	1,195,324,991
基金累計額(C=A+B)		400,501,801	1,121,438,883	2,857,896,446	4,379,837,130
支 出	補填金交付額	41,497,900	281,499,100	456,585,500	779,582,500
	積立金返戻額	0	0	0	0
	計(D)	41,497,900	281,499,100	456,585,500	779,582,500
基金残額(C-D)		359,003,901	839,939,783	2,401,310,946	3,600,254,630

(2) 肉用牛肥育経営安定交付金制度 (牛マルキン) における平成30年度(1~3月)基金管理状況

(新業対)

平成31年3月31日現在

(単位:円)

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
前期繰越金(A)		0	0	0	0
収 入	生産者負担金	10,936,000	29,325,000	96,292,000	136,553,000
	機構交付金	(0)	(0)	(44,330,662)	(44,330,662)
	受取利息	0	0	0	0
	計(B)	10,936,000	29,325,000	140,622,662	180,883,662
基金累計額(C=A+B)		10,936,000	29,325,000	140,622,662	180,883,662
支 出	補填金交付額	0	0	14,776,897	14,776,897
	補填金交付額(機構)	(0)	(0)	(44,330,662)	(44,330,662)
	計(D)	0	0	59,107,559	59,107,559
基金残額(C-D)		10,936,000	29,325,000	81,515,103	121,776,103

2 価格安定対策

1. 補給金事業

(1) 肉用子牛生産者補給金制度（機構補助・積立助成金 14,567,800 円、補てん金 336,000 円）
肉用子牛の再生産の確保と農業経営の安定を図るため肉用子牛の価格が低落し国の定める保証基準価格を下回った場合にその価格差を補填する肉用子牛生産者補給金制度を実施した。

平成 30 年度は第 6 業務対象年間の 4 年目であり、日本短角種を含むその他肉専用種において生産者補給金が発動された。子牛の個体登録頭数では、黒毛和種及びその他肉専用種が前年度より増加し、黒毛和種は前年比 121% の 4,756 頭、その他肉専用種は前年比 124% の 89 頭となった。他の品種は前年より 1 割程度減少したが、全体で前年比 104.4% の 9,324 頭となった。

① 生産者補給金交付契約締結状況

(単位：戸)

区分	個人	農協	農事組 合法人	株式 会社	有限 会社	市町村	その他	計
27 年度末	742	3	2	4	4	1	0	756
28 年度末	745	3	2	5	4	1	0	760
29 年度末	747	3	2	5	4	1	0	762
30 年度末	750	3	2	5	4	1	0	765

② 事務委託先契約締結状況

(単位：件)

区 分	総合農協	専門農協	そ の 他	計
27年度末	8	5	1	14
28年度末	8	5	1	14
29年度末	8	5	1	14
30年度末	8	5	1	14

③ 契約肉用子牛個体登録頭数の内訳

(単位：頭)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	計
継続	1,026	0	46	0	25	1,097
新規	3,730	0	43	2,809	1,645	8,227
計	4,756	0	89	2,809	1,670	9,324

④ 保証基準価格と合理化目標価格

(単位：円／頭)

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳交雑種
保証基準価格	改定前	341,000	311,000	222,000	141,000	216,000
	改定後	531,000	489,000	314,000	161,000	269,000
合理化目標価格	改定前	284,000	261,000	151,000	98,000	158,000
	改定後	421,000	388,000	249,000	108,000	212,000

(注) 改定後の保証基準価格及び合理化目標価格は、平成30年12月30日から適用。

⑤ 肉用子牛1頭当たりの生産者積立金及び負担区分

(単位：円)

品種区分	生産者積立金	負担区分		
		農畜産業振興機構	青森県	生産者
黒毛和種	1,200	600	300	300
褐毛和種	4,600	2,300	1,150	1,150
その他肉専用種	12,400	6,200	3,100	3,100
乳用種	6,400	3,200	1,600	1,600
乳交雑種	2,400	1,200	600	600

⑥ 生産者積立金造成内訳

(単位：頭、円)

品 種		個体登録頭数	積立金単価	積立金所要額	負担区分		
					機構(1/2)	青森県(1/4)	生産者(1/4)
黒毛和牛	継続	1,026	1,200	—	—	—	307,800
	新規	3,730	1,200	—	—	—	1,119,000
	計	4,756	—	5,707,200	2,853,600	1,426,800	1,426,800
褐毛和種	継続	0	4,600	—	—	—	0
	新規	0	4,600	—	—	—	0
	計	0	—	—	—	—	0
その他肉専用種	継続	46	12,400	—	—	—	142,600
	新規	43	12,400	—	—	—	133,300
	計	89	—	1,103,600	551,800	275,900	275,900
乳用種	継続	0	6,400	—	—	—	0
	新規	2,809	6,400	—	—	—	4,494,400
	計	2,809	—	17,977,600	8,988,800	4,494,400	4,494,400
乳用交雑種	継続	25	2,400	—	—	—	15,000
	新規	1,645	2,400	—	—	—	987,000
	計	1,670	—	4,008,000	2,004,000	1,002,000	1,002,000
合 計	継続	1,097	—	—	—	—	465,400
	新規	8,227	—	—	—	—	6,733,700
	計	9,324	—	28,796,400	14,398,200	7,199,100	7,199,100

(注) 個体登録頭数は平成30年1月～12月分

トレサ不正に伴い、機構へ220,800円を返還し、県準備金へ110,400円を仮置した。

⑦ 生産者積立金及び生産者積立準備金管理状況

(単位：円)

区分		保証基準価格の品種区分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計		
1 期首残高	①	生産者積立金	16,360,228	0	4,083,729	72,316,232	18,449,589	111,209,778		
	②	生産者積立準備金	—	—	—	—	—	123,285,161		
	内訳	③	生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	13,906,941	
		④	県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	109,378,220	
		⑤	機構の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	0	
2 生産者積立金積立実績	⑥	生産者積立金純増加額(⑨+⑫+⑮+⑱)	3,972,600	0	685,100	13,737,600	2,991,000	21,386,300		
	⑦	生産者積立準備金からの繰入額(⑩+⑬+⑯)	1,734,600	0	418,500	4,579,200	1,017,000	7,749,300		
	⑧	計	5,707,200	0	1,103,600	18,316,800	4,008,000	29,135,600		
	内	生産者	⑨	負担金	1,119,000	0	133,300	4,579,200	987,000	6,818,500
			⑩	生産者積立準備金(③からの繰入額)	307,800	0	142,600	0	15,000	465,400
			⑪	(小計)	1,426,800	0	275,900	4,579,200	1,002,000	7,283,900
	県	⑫	生産者積立助成金	0	0	0	0	0	0	
		⑬	生産者積立準備金(④からの繰入額)	1,426,800	0	275,900	4,579,200	1,002,000	7,283,900	
		⑭	(小計)	1,426,800	0	275,900	4,579,200	1,002,000	7,283,900	
	訳	機構	⑮	生産者積立助成金	2,853,600	0	551,800	9,158,400	2,004,000	14,567,800
			⑯	生産者積立準備金(⑤からの繰入額)	0	0	0	0	0	0
			⑰	(小計)	2,853,600	0	551,800	9,158,400	2,004,000	14,567,800
		その他	⑱	生産者積立金とすることを指定して寄附又は補助された財産	0	0	0	0	0	0
3 他の資産からの繰入状況等	⑲	特別の積立金から生産者積立金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	⑳	調整積立金から生産者積立金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	㉑	交付した補給金の生産者からの返還額	0	0	0	0	0	0		
	㉒	生産者補給金に充てるための全国協会等からの借入金額	0	0	0	0	0	0		
	㉓	生産者積立金に係る運用果実	22,195	0	5,537	97,746	25,024	150,502		
	㉔	生産者積立準備金に係る運用果実	—	—	—	—	—	135,725		
	㉕	生産者補給金交付額(㉑を含む)	0	0	0	0	0	0		
	㉖	生産者積立金からの借入金返済額	0	0	0	0	0	0		
	㉗	生産者積立金から生産者積立準備金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	㉘	生産者積立金からの返還額(生産者分)	0	0	0	0	0	0		
	㉙	生産者積立金からの返還額(県分)	0	0	0	110,400	0	110,400		
	㉚	生産者積立金からの返還額(機構分)	0	0	0	220,800	0	220,800		
	㉛	特別の積立金から生産者積立準備金への繰入額	—	—	—	—	—	110,400		
	㉜	生産者積立準備金からの返還額(生産者分)	—	—	—	—	—	—		
㉝	生産者積立準備金からの返還額(県分)	—	—	—	—	—	—			
㉞	生産者積立準備金からの返還額(機構分)	—	—	—	—	—	—			
4 期末残高	⑳	生産者積立金(①+⑧+⑲+㉑+㉒+㉓+㉕+㉖+㉗+㉘+㉙+㉚+㉛)	22,089,623	0	5,192,866	90,399,578	22,482,613	140,164,680		
	㉟	生産者積立準備金(②+⑦+㉔+㉕+㉖+㉗+㉘+㉙+㉚+㉛+㉜+㉝+㉞)	—	—	—	—	—	115,781,986		
	内訳	㊱	生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	13,441,663	
		㊲	県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	102,340,323	
		㊳	機構の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	0	

⑧ 特別の積立金管理状況

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高					0		0
増 加	特別納付金				0		0
	受入利息				0		0
	生産者積立金返還金				110,400		110,400
	小計				110,400		110,400
減 少	普通財産へ繰入				0		0
	生産者積立準備金へ繰入				110,400		110,400
	小計				110,400		110,400
期末残高					0		0

⑨ 償還円滑化積立金管理状況

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高			128,338		289,110	9,006,902	9,424,350
増 加	生産者積立準備金より繰入		0		0	0	0
	受入利息		174		392	12,204	12,770
	小計		174		392	12,204	12,770
減 少	機構へ償還		0		0	0	0
	全国協会へ償還		0		0	0	0
	小計		0		0	0	0
期末残高			128,512		289,502	9,019,106	9,437,120

⑩ 生産者補給交付金交付状況

(単位：頭、円、人)

区分	保証基準価格の 品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用 交雑種	合計
平成 30 年	交付対象 頭数①	販 売			1			1
		保 留			20			20
		合 計			21			21
7 月 1 日 ～ 9 月 30 日	②生産者補給金単価				16,000			—
	③生産者補給金交付額				336,000			336,000
	(①×②)	不足払部分						0
		積立部分						
	交付対象生産者数					7		

2. 補助事業

(1) 肉用牛繁殖経営支援事業（機構補助・事業費 1,073,678 円）

- ① 事業内容：肉用子牛の四半期毎の平均売買価格が発動基準を下回った場合、当該四半期に販売又は自家保留された肉用子牛を対象として、発動基準を下回った額の4分の3を交付した。

この事業については、肉用子牛生産者補給金制度に一本化されたため、平成30年12月30日で終了した。

② 発動基準

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
平成30年度	460,000 円	420,000円	300,000円

③ 交付状況

(単位：円)

区 分	黒毛和種		褐毛和種		その他肉専用種		合 計	
	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額
H29第4 四半期	—	—	—	—	—	—		
第1 四半期	—	—	—	—	—	—		
第2 四半期	—	—	—	—	19	1,111,500	19	1,111,500
第3 四半期	—	—	—	—	—	—		
計	—	—	—	—	19	1,111,500	19	1,111,500

(2) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業（機構補助）

① 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業（事業費 6,283,545 円）

ア 制度運営適正化推進

肉用子牛生産者補給金制度に係る業務の適正な実施を図るため、肉用子牛の個体識別、個体登録及び販売・保留・異動の確認等事務推進に努めた。また、家畜市場における肉用子牛の取引情報を収集し、独立行政法人農畜産業振興機構へ報告を行った。

イ 指定協会調査指導

協会の業務規程に基づき、協会が事務を委託する者が行う委託事務の執行についての点検、調査及び指導を実施し、肉用子牛生産者補給金制度の適正な実施体制の確保に努めた。

② 指定協会運営体制支援事業（事業費 5,120,666 円）

肉用子牛生産者補給金制度の業務を円滑に遂行するため、協会の運営体制の充実を図った。

(3) 肉用牛経営安定対策補完事業（機構補助・事業費 19,209,458円）

肉用牛生産が中山間地域の基幹的な農業部門のひとつとして、地域経済の活性化に重要な役割を果たしていることを踏まえ、高齢化等に対処する肉用牛ヘルパー組織への支援、地域の特色ある肉用牛振興対策等を実施し、多様な肉用牛経営の実現を図った。

① 中核的担い手育成増頭推進（補助単価：80,000 円、100,000 円）

計画的に高能力の肉専用種繁殖雌牛を増頭した者への奨励金の交付
(37戸、117頭、11,340,000円)

- ② 優良繁殖雌牛導入支援 (補助単価：40,000円、50,000円)

優良な繁殖雌牛を導入し繁殖農家に貸し付けた場合の奨励金の交付
(15戸、18頭、900,000円)

- ③ 肉用牛ヘルパー推進 (補助率：1/2)

肉用牛ヘルパー利用組合が実施した活動経費に対する補助 (2団体 5,653,275円)

- ④ 肉用牛振興推進指導

推進会議等の開催、事業推進指導の実施 (1,316,183円)

3. 受託事業

- (1) 養豚経営安定対策事業・肉豚経営安定交付金制度 (機構委託・事業費 548,752円)

養豚経営安定対策事業は、養豚経営の収益性が悪化した場合に、粗収益と生産コストの差額の8割を補填することにより、養豚経営の安定を図ることを目的としていたが、平成30年12月30日より粗収益と生産コストの差額の9割を補填する等対策が拡充された肉豚経営安定交付金制度へと移行したところである。

本年度は、(独)農畜産業振興機構の委託を受け、事業実施主体となる養豚生産者及び関係団体に対し事業説明会を開催したほか、事業内容の問い合わせに対応した。

また、1戸の養豚生産者と申請事務等委託契約を締結し、生産者が提出する書類の作成代行等の事務を行った。

	養豚経営安定対策事業	肉豚経営安定交付金制度
対象肉豚	全規格の肉豚 (全廃・自家消費を除く)	全規格の肉豚 (全廃・自家消費を除く)
生産者積立金	1,400円/頭 (うち生産者負担額700円)	1,600円/頭 (うち生産者負担額400円)
補填金単価	粗収益が生産コストを下回った場合、その差額の8割	粗収益が生産コストを下回った場合、その差額の9割

3 家畜衛生対策（継続2）

1. 補助事業

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国補助・事業費 5,919,529円）

症状が明確でない慢性的な伝染性疾患の増加に加え、清浄化が困難な伝染性疾患の発生がみられることから、生産者サイドでの自主的・組織的な取組により疾病の清浄化及び発生・流行防止対策を推進し、損耗防止を図った。

① ヨーネ病早期清浄化のための自主淘汰の推進

患畜同居牛の自主淘汰促進： 淘汰奨励費交付頭数 7頭（4戸）

② 牛白血病(EBL)の感染拡大の防止の推進

・遺伝子検査：240頭

・放牧場等対策：忌避駆除薬 6農場、防虫ネット 7農場、アブキャップ 4農場

③ 牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)対策

・講習会：1回（H30.7.19 東北町）

・講演内容・講師：

「A町における地域ぐるみの牛ウイルス性下痢・粘膜病清浄化対策」

岩手県中央家畜保健衛生所 多田 成克 氏

「ニーズに応える牛のワクチン」

（株）微生物科学研究所 シニアテクニカルアドバイザー 函城 悦司 氏

④ 農場飼養衛生管理強化対策（指定獣医師3名、農場指導 12戸 24回）

(2) 牛疾病検査円滑化推進対策事業（国補助・事業費 8,970,226円）

牛海綿状脳症(BSE)の浸潤状況をより正確に把握し、BSEの防疫対策を検証するため、「牛海綿状脳症対策特別措置法」に基づき、48月齢以上の死亡牛の検査と適正処理の推進を図った。

死亡牛の管理促進費、輸送促進費及び化製処理費の補助： 48月齢以上 680頭

(3) 獣医師養成確保修学資金貸与事業（国補助・事業費 4,757,452円）

本県の家畜防疫体制の強化を図るため、本事業の普及啓発を図り、獣医師養成確保修学資金を貸与した。

① 修学資金貸与者：3名

② 共同負担者：青森県（2名）、青森県農業共済組合連合会（1名）

(4) 豚丹毒予防接種向上対策事業（市町村補助・事業費 33,000円）

豚丹毒の発生を防止することにより養豚産業の安定的な発展を図るため、本会が行う豚丹毒予防接種向上対策事業に要する経費の一部に対し、関係市町村が本会を経由して生産者に補助金を交付した。

① 実施市町村：七戸町

② 補助対象頭数：2,200頭（1頭当り15円）

(5) 家畜防疫互助基金支援事業（機構補助・事業費 1,491,876円）

豚コレラ及び口蹄疫等の海外悪性伝染病が発生した場合、畜産経営への影響を緩和するため、

経営再開までに必要な経費を生産者等が互助補償する仕組への加入推進を図った。

- ① 対象伝染病：口蹄疫、牛疫、牛肺疫、アフリカ豚コレラ、豚コレラ
- ② 互助金交付：1) 法に基づき殺処分した農場が経営再開のために家畜を導入した経費
2) 殺処分した家畜を焼却・埋却するため自ら負担した経費
- ③ 契約締結状況：(30年度末)

区 分	契約戸数	契約頭数	積立金額	備考
牛	736	64,139	9,075,025	
豚	31	334,401	13,686,105	
計	767	398,540	22,761,130	

- (6) 衛生体制強化基金事業（中央畜産会補助・事業費 53,000円）

家畜伝染病予防接種推進対策事業の効率的な実施に必要な研修会を開催した。

生産者及び指定獣医師等を対象とした畜産技術研修会の開催： 1回

- (7) 育成馬等予防接種推進事業（中央畜産会補助・事業費 100,000円+1,015,497円）

軽種馬生産地における伝染性疾患の発生流行防止のため、育成馬の予防接種の徹底を図った。

- ① 馬インフルエンザ、馬流行性脳炎、破傷風（3種混合）予防接種 286頭
- ② 馬インフルエンザ予防接種 20頭
- ③ 馬日本脳炎予防接種 7頭

2. 受託事業

- (1) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中央畜産会委託・事業費 932,443円）

馬の生産、流通の広域化等により伝染性疾患の侵入、流行の危険性も大きいことから、競走馬以外の馬の飼養衛生に関する講習会の開催、基礎調査等を実施し馬衛生管理の向上を図った。

- ① 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会開催： 1回（H30.7.20 十和田市）
- ② 馬飼養衛生管理技術地方講習会開催： 1回（H30.11.14 十和田市）

1) 講師：日高家畜保健衛生所 宮澤 国男 氏

講演：「北海道の馬鼻肺炎予防対策マニュアル」について

2) 講師：日生研株式会社 大森 崇司 氏

講演：「馬鼻肺炎ワクチン」について

- ③ 馬獣医療実態調査： 11戸

- ④ 馬飼養衛生基礎技術実習： 1回（H30.10.12 東北町）

講師：むつ家畜保健衛生所 高橋 優 氏

講演：「馬臨床実習」について

講師：イチャマホースクリニック 一山 雄二郎 氏

臨床実習：「子馬の肢軸異常」について

- (2) 農場HACCP認証支援地域強化促進事業（中央畜産会委託・事業費 2,640,277円）

農場HACCPに取り組む農場に対して、専門家による農場HACCPの構築指導を行い、

地域に農場HACCP取組の中核となる農家への支援を行った。

- ① 農場指導： 3戸（肉用牛 1戸、養豚 1戸、養鶏 1戸(新規)）
- ② 普及推進協議会： 1回、地域取組活動： 1回、意見交換会： 1回

(3) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会委託・事業費 590,646円+3,556,576円）

乗用馬・農用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進並びに感染症対策の普及啓発の検討を行った。

- ① 検討会の開催： 1回
- ② 馬インフルエンザ予防接種： 150頭（農用馬 0頭、乗用馬120頭、その他関連馬 30頭）
- ③ 馬鼻肺炎予防接種：生ワクチン 220頭、不活化ワクチン 48頭

(4) 地域自衛防疫取組促進対策事業（家畜衛生対策推進協議会助成・事業費 3,066,311円）

生産段階での防疫演習等の実施、特定悪性慢性感染症の清浄化の推進、これら防疫措置の基礎となる家畜の飼養衛生管理基準の徹底、啓発を行った。

- ① 検討会の開催： 事業推進検討会等 4回
- ② 防疫演習等開催： 地域防疫演習 6地区、防疫研修会 2回（口蹄疫、豚コレラ）
- ③ 馬伝染性貧血自衛検査推進対策： 7戸 19頭

(5) 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業（家畜衛生対策推進協議会委託・事業費 1,304,032円）

野生獣被害低減対策支援として、県内畜産及び野生獣関係団体等との連携体制を整備し、捕獲野生獣の衛生検査を実施した。

- ① 地域衛生技術連絡協議会開催： 委員会 2回、講習会 1回
- ② 野生獣衛生実態調査： ニホンジカ 3頭

(6) 畜産GAP普及推進事業（中央畜産会委託・事業費 576,000円）

日本版畜産GAPの認証取得、普及推進に係る取組みを支援し、畜産GAPの拡大を推進した。

- ① 指導員育成研修会受講： 5名
- ② 生産現場における研修会開催： 1回

(7) 牛せき柱適正管理等推進事業（日本畜産副産物協会委託・事業費 212,529円）

牛海綿状脳症(BSE)発生により途絶えた、畜産リサイクルシステムの機能の回復と豚肉骨粉等の飼料利用を推進するため、食肉業者と化製業者が原料の引渡し・引受け段階において牛原料を含まない原料供給の促進を図った。 契約業者数： 3業者 枝肉確認表： 20,884枚

3. 協会単独事業（自主事業）

(1) 自衛防疫強化対策事業（事業費 911,647円）

最近における家畜の飼養衛生の実態を踏まえ、自衛防疫体制の確立と自衛防疫事業の効率的な推進を図った。

- ① 事業推進会議 運営協議会 1回（H31.2.14 青森市）

② 豚コレラ対策に係る消毒支援：消毒薬配布 39農場

(2) 自主防疫推進事業（予防接種事業）（事業費 52,358,645円）

家畜伝染病の発生・流行の防止のため、国・県の指導のもとに、生産者・市町村関係団体及び地区家畜衛生推進協議会による防疫体制の強化を図りながら、指定獣医師による家畜伝染病予防接種事業の円滑な推進を図った。

○予防接種事業の種類・実績 (単位：頭、羽)

種 類		実績数	種 類		実績数
牛	牛 ア カ バ ネ 病	7,226	豚	豚 丹 毒 (生50ml)	19,905
	牛伝染性鼻気管炎(5種)	5,220		豚 丹 毒 (不・オイル)	6,000
	牛伝染性鼻気管炎(6種)	239		豚 流 行 性 脳 炎	393
	牛IBR(5種)・ヘモフィルス(混)5Hs	7,199	馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	109
	牛クロストリジウム(3種)	6,292		馬 イン フ ル エ ン ザ	18
	牛クロストリジウム(5種)	282		馬 流 行 性 脳 炎	46
	牛ヘモフィルス感染症	187		馬 鼻 肺 炎	0
	牛 下 痢 (5種混合)	114	鶏	ニューカッスル病(ND)	66,000
豚	豚 丹 毒 (生20ml)	16,902		ニューカッスル病・IB(混)	56,000

(3) 総合指導事業（事業費 549,890円）

家畜の疾病が複雑多様化していることから、地域で抱えている家畜衛生対策の課題解決に必要な事業への助成並びに指定獣医師の技術向上等を図った。

① 家畜防疫地域活性化促進事業 2地区実施

(東青地区) 産業動物獣医療安定確保対策事業

獣医師の定期的な肉用牛飼養農家への巡回により、治療・繁殖検査等の診療機会の充実を図った。

(むつ地区) ミルキングシステム点検事業

正しい搾乳技術とミルキングシステムの点検を促進し、乳質の向上と乳房炎の発生を予防し、酪農経営の安定を図った。 10戸

② 研修・広報事業

ア 地区研修会等開催状況 開催協議会： 5地区、開催回数：5回

③ 家畜衛生功労者表彰

ア 表彰規程第2条第1項（生産者等）： 1名（津軽）

イ 表彰規程第2条第2項（指導者等）： 3名（三八、上十三、むつ）

(4) 自衛防疫指導事業（事業費 3,783,000円）

地区家畜衛生推進協議会が行う自衛防疫関連事業及び研修広報事業等について、寄託金を財源として事業の円滑な推進を図った。(5地区)

(5) 家畜防疫互助推進事業（事業費 297,114円）

家畜防疫互助基金造成等支援事業の推進を補完した。

(6) 死亡牛処理管理促進事業（事業費 522,443円）

死亡牛処理に係る産業廃棄物処理票（マニフェスト）の保管・管理等の適正化を促進することにより、死亡牛処理の円滑な推進を図った。（取扱頭数 2,486頭）

付 表

(1) 自主防疫推進事業実績（平成30年度）

① 家畜伝染病予防接種実績頭数

(単位：円/頭・羽)

区 分		30年度 計画頭数	実績頭数 合 計	地区別実績頭数				
				東 青	三 八	上十三	む つ	津 軽
(1) 補助事業								
馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	290	286	}	-	-	-	-
	馬インフルエンザ	35	20		-	-	-	-
	馬流行性脳炎	10	7		-	-	-	-
	馬鼻肺炎(不)	40	48		県内一円で実施のため			-
	馬鼻肺炎(生)	130	220		-	-	-	-
	馬インフルエンザ(自衛)	140	150		-	-	-	-
(2) 協会事業								
豚	豚丹毒(生20ml)	16,600	16,902		893	13,521		2,488
	豚丹毒(生50ml)	23,000	19,905		9,727	10,128		50
	豚丹毒(不・オイル)	6,000	6,000		6,000			
	豚流行性脳炎	1,000	393			393		
	豚流行性脳炎・バルボ混合	0	200			200		
牛	牛アカバネ病	7,400	7,226	197	1,609	3,514	1,323	583
	牛伝染性鼻気管炎(5種)	5,360	5,220	130	424	4,433	233	
	牛伝染性鼻気管炎(6種)	150	239	76	33	78	26	26
	牛伝染性鼻気管炎(5種)・牛ヘモフィルス(混合) 5Hs	6,220	7,199	109	2,010	2,858	1,483	739
	牛クロストリジウム(3種)	6,340	6,292	224	760	3,170	1,545	593
	牛クロストリジウム(5種)	80	282		210		72	
	牛ヘモフィルス感染症	500	187		11		176	
	牛下痢(5種混合)	85	114	64	20			30
馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	125	109	}	-	-	-	-
	馬インフルエンザ	15	18		-	-	-	-
	馬流行性脳炎	35	46		県内一円で実施のため			-
	馬鼻肺炎	0	0		-	-	-	-
鶏	ニューカッスル病(ND)	72,000	66,000		1,000			65,000
	ニューカッスル病・IB(混)	56,000	56,000	1,000				55,000